

小さなことの積み重ね

児玉 直樹

公益社団法人日本診療放射線技師会 副会長

米国メジャーリーグで活躍している大谷翔平選手が、アメリカンリーグの本塁打王のタイトルを獲得しました。日本人選手がメジャーリーグで本塁打王を獲得するのは初めてのことで、打撃主要3部門でのタイトル獲得は、日本人選手としては2004年に首位打者（打率）を獲得したイチロー選手以来、19年ぶりとなります。大谷翔平選手はコメントで「メジャーリーグでこれまで活躍された偉大な日本人選手たちのことを考えると、大変恐縮であり光栄なことです。この目標を達成するのに協力してくれたチームメート、コーチングスタッフ、ファンに感謝します」と述べています。大谷翔平選手の人間性がとても表れているコメントですよ。



日本人選手によるメジャーリーグ挑戦のパイオニアといえば野茂英雄選手ですね。1995年に日本での実績と名誉を捨てて米国へ渡り、1996年と2001年にノーヒットノーランを達成しています。この野茂英雄選手の活躍を見て多くの日本人が勇気づけられ、日本人が海外へ挑戦をするきっかけになりました。またこれまでに最も活躍した日本人メジャーリーガーはイチロー選手でしょう。2000年に日本人初の野手としてメジャーリーガーになるまでに、7年連続首位打者を獲得しています。ルーキーイヤーの2001年に242安打を放ち、首位打者を獲得し、メジャー4年目の2004年10月には84年間破られることのなかったジョージ・シスラーのメジャー歴代シーズン最多安打記録を更新しました。この試合の後のインタビューで、「小さなことを積み重ねることが、とんでもないところへ行くただ一つの道だと思っている」と語っています。結果が出ていても出なくても、コツコツと毎日努力し続けることでしか、大きな成果にはつながらないことをイチロー自身が証明しています。その後、メジャーリーグでは3,089安打を記録し、日本プロ野球での1,278安打の記録を含めたプロ通算4,367安打はギネス世界記録として登録されています。

現在、われわれが実施している診療放射線技師としての業務は、先人たちの努力の積み重ねによってできたものです。国への働き掛けや他団体との交渉など、本当に小さいことをコツコツと積み重ねることによって勝ち得たものなのです。若い診療放射線技師の中には、免許を取得したのだから業務ができて当然だ、と考える方もいます。しかし、先人たちの努力の積み重ねによって、現在の業務ができていることを決して忘れてはいけません。われわれはさらに小さな努力を積み重ねて、未来の診療放射線技師たちに大きな成果を残していく義務があるのです。こういった継承こそが職能団体としての役割なのです。自分さえよければいいという考えでは、小さなことを積み重ねることはできません。

第39回日本診療放射線技師学術大会には、多くの皆さまに参加していただきました。この紙面をお借りして感謝申し上げます。研究発表や報告をされた皆さんは充実した学術大会を経験し、友人と会って多くを語らうことで英気を養えたのではないのでしょうか。しかし、皆さんが活躍し、充実した学会を経験できたのは、多くの周りのサポートがあったからです。特に、医療機関での日常診療を止めることなく、業務を守ってくれていた同僚やメディカルスタッフがいたからに違いありません。ぜひ、同僚やメディカルスタッフには感謝の気持ちを言葉で伝えてほしいと思います。「私の目標を達成するのに協力してくれた同僚、上司や先輩、メディカルスタッフに感謝します」と。